

# 長雨・日照不足対策

9月

## 水 稲

- 1 短期栽培（コシヒカリ）、普通期栽培（早生品種：あきさかり、はえぬき等）
  - 1) 収穫適期になれば、速やかに収穫する。この際、落水口を完全にあげ、天候が回復したらすぐにコンバインが入れるよう排水しておき、水尻が少しでも高いと滞水するので、鍬等で排水溝を切って完全落水とする。
  - 2) 高水分での収穫となる場合は、コンバインの走行速度を落とすか、あるいは刈り取り条数を減らして収穫作業を行う。
  - 3) 倒伏等により穂発芽している場合は、穂発芽粒の混入を最少限に止めるため、無倒伏部分と倒伏部分を別々に収穫・乾燥を行う。
  - 4) コンバイン袋内での蒸れや穂発芽を助長しないように、収穫後は直ちに（少なくとも4時間以内）乾燥作業に移る。乾燥初めは通風乾燥として籾水分のむら直しを行った後、熱風乾燥を行う
- 2 普通期栽培（中生品種：ヒノヒカリ、おいでまい等）
  - 1) 上位葉に葉いもちが発生しているほ地では、穂いもちへの移行を防ぐため、いもち病に効果のある薬剤で追加防除を行う。

## 大 豆

- 1 倒伏、根腐れ、下葉の黄化対策として排水に努める。
- 2 紫斑病の発生が予想されるので、防除を徹底する。

## 茶

炭疽病、もち病が発生しやすいので、秋芽開葉期の防除に努める。

## 野 菜

- 1 長雨寡日照により湿害や軟弱徒長、病害が増加する。このため病害対策と排水対策を実施することが大切である。風通し、日当たりが悪いと病害が拡大しやすいので、株元や重なっている葉の除去に努める。

特に、べと病、灰色かび病、炭疽病等の病気の被害が拡大しやすい状態になっている。被害拡大防止のため、早期に病葉や病株を除去し、ほ場外へ搬出することが重要である。そして、雨の間の晴天日に、防除暦、防除指針に従い、適期防除に努める。雨天後は、葉や茎が軟らかく、薬害が発生しやすいので、基準濃度の範囲の薄い濃度（例：2,000～3,000倍の場合、3,000倍）で散布する等、注意して薬剤散布を行う。

栽培中の場合、水が溝にたまった状態になると根腐れが発生しやすいので、排水を徹底する。

果菜類では、曇雨天が続くと開花、結実がスムーズに進まない。草勢が弱りやすいので、摘花や摘果等を行い、着果負担を軽減し、葉面散布剤を散布し、草勢回復に努める。

草勢の回復を図るため、葉面散布剤で追肥する。また、肥料が流亡しているので、草勢を見ながら早めに追肥する。
- 2 露地野菜
  - 1) ほ場の排水  
栽培中の野菜は、湿害と酸素欠乏により根が弱っているので、ほ場の排水に努める。  
特に、定植直後のレタス、ブロッコリー、キャベツ、播種直後のナバナは湿害に弱いので注意する。
  - 2) 病害防除
    - ①秋キュウリは、べと病、炭疽病等が発生しやすいので、晴れ間をみて適用薬剤を早急に散布する。

②ブロッコリー、キャベツ等のアブラナ科野菜では、細菌性の土壌病害対策、立枯れ性病害対策、菌核病対策を行う。

③レタスは腐敗病が発生しやすいため、適用薬剤を早急に散布する。

④間引き直後の金時ニンジン、黒葉枯れ病の対策を早急に行う。

### 3) ほ場の準備

露地栽培のほ場準備では、ほ場の乾きが悪く水がたまっている場合は、ほ場全体の耕うんはせず（耕うんすると土壌に水を含み一層乾きにくくなる）、排水溝を設置して（約5mおきの溝、ほ場周りの溝、落とし口つなぐ溝等）積極的な排水対策を行う。落とし口周辺だけでも溝を掘ると排水しやすくなる。

耕うん可能なほ場条件になってから、耕うんし、うねはできるだけ高うねにする。すぐに定植しない場合は、基肥を施用してマルチングをすると雑草防止、土壌表面のしまりを防止できる。ほ場周りに排水溝をほり、うねが30m以上になる場合は中溝をつくるなど排水対策を行う。

## 3 施設野菜

### 1) 施設管理

施設野菜では、雨の後に晴天になると、急激な根の水分変化に対応できないため、極端な萎れや生長点等の焼けが発生しやすくなる。萎れ、生長点等の焼け防止のため、雨の日でも土壌水分を確認し乾燥しているようであれば、午前中に適量かん水を行うとともに、施設を閉め切らず、サイドや入り口を開放して風通しをよくし、多湿状態にならないように管理する。雨天後の晴天日は、早朝に適量のかん水を行うとともに、施設内の温度が急激に上昇しないよう、早朝、7時ごろから徐々に、サイドや谷等を開放する。また、施設周りに排水溝を掘り、施設への水の流入防止に努める。

### 2) 病害防除

①ハウス抑制キュウリは、秋キュウリの防除に加えて、灰色かび病、菌核病対策として、防除暦、防除指針を参考にして系統の異なる薬剤をローテーションで散布する。

②長期どりトマト（ミニトマトを含む）は疫病、灰色かび病、菌核病、葉かび病の発生の増加が懸念されるので、ハウス抑制キュウリに準じて防除する。

③ハウス内部の湿度が高い場合は、燻煙剤による防除を考える。

## 果 樹・オリーブ

### 1 共通事項

1) 長雨による停滞水の影響で根の活力が著しく低下し、樹勢の衰弱や落葉、枯れ枝の発生等が予測される。このような園では、明きょ等により早急に停滞水を排除する必要がある。

2) 降雨により耕土が流出し、根が露出している場合は、客土等により覆土する。

3) 敷き藁を実施している園では、根元に藁を集めて土壌表面からの水分蒸散を図り、品質低下を防止する。また、雑草が生えている場合は、除草を行い、乾燥に努める。

4) 病害虫の多発が予想されるので、雨後の薬剤散布を徹底する。

### 2 柑橘類

1) 園内に溝を掘り排水に努めるとともに、断根によって果実品質の向上に努める。一方、樹勢が衰弱している場合は極端な断根は慎む。

2) 褐色腐敗病発生のおそれがある園では防除暦（異常発生・部分発生防除の欄を参照）に従って、薬剤散布を行う。

### 3 キウイフルーツ

1) 停滞水の影響が最も大きい果樹であるので、排水には特に留意する。

2) 枝が過繁茂している場合は、枝管理を徹底し、果実の品質低下の防止に努める。

3) 果実軟腐症対策として、防除暦を参考に薬剤散布を行う。

### 4 カキ

1) 耐水性は強いが、停滞水によって根の活力が低下するので、排水に心掛ける。

2) 炭疽病対策として、防除暦を参考に薬剤散布を行う。

## 5 モモ

- 1) 徒長枝の間引き等による枝管理を行い、樹冠全体の日照を良好にする。
- 2) せん孔細菌病対策として、防除暦を参考に薬剤散布を行う。

## 6 オリーブ

- 1) 園内に溝を掘るなど排水に努める。
- 2) 炭疽病対策として、防除暦を参考に薬剤散布を行う。

## 花 き

### 1 施設内管理

- 1) 昼間は十分に換気を行う。雨天時には、換気扇による換気、温風暖房機による間断送風等を強制的に行う。
- 2) かん水は必要最小限に止め、こまめに行う。また、株元にかん水し、植物体に掛けないようにする。
- 3) 農薬による防除はできる限り燻煙、煙霧等を取り入れ、噴霧器による薬液散布は必要最小限に止める。薬液散布を実施する場合は、施設を密閉する時間までに薬液が乾くようにする。
- 4) 生育や商品価値に支障がない限り、下葉や余分な枝は除去して、通風採光を図る。
- 5) 罹病株や罹病した部位はできる限り除去し、直ちに施設外へ搬出して焼却処分する。
- 6) 寡日照が続く中での晴天は、急激な気象変化をきたし、葉焼け、茎折れ等を起こしやすいので、換気等により高温防止に努める。
- 7) 施設廻りの排水を徹底し、内部へ水が入り込まないようにし、根腐れ防止に努める。

### 2 露地栽培の管理

- 1) ほ場内の水をほ場外へ排出するために、排水溝を整備する。
- 2) 肥料の流亡が予想されるので、葉色等を見ながら液肥の葉面散布など追肥を与える。
- 3) 雨天の間隙をぬってでも、薬剤防除に努め、病虫害の多発を防ぐ。

### 3 品目ごとの管理

#### 1) キ ク

- ① 黒斑病、褐斑病、白さび病等、各種病害が多発するおそれがあるので、風通しをよくするとともに、薬剤による防除を徹底する。
- ② 親株ほ場は、できる限りビニール等で雨よけをするとともに、白さび病等の防除を徹底する。
- ③ 雨天、曇天日の電照時間は、通常より1時間程度長めにする。
- ④ 花首が徒長しやすい品種や先ごけ症の出やすい品種では、わい化剤を散布する。

#### 2) カーネーション

- ① 軟弱でしかも茎細に育っているなので、整芽を徹底する。
- ② 灰色かび病、さび病の発生が予想されるので、防除を徹底する。さび病については、発生を見たら速やかに罹病部位を除去する。

#### 3) マーガレット

- ① 株の内部が蒸れやすくなるため、下葉や余分な枝は除去して、通風・採光を図る。

#### 4) その他草花類

- ① 灰色かび病等の多発が予想されるので、換気と防除を徹底する。
- ② 軟弱徒長に育っているなので、かん水はやや控え目にする。

## 畜 産

### 1 畜舎内外の環境整備

- 1) 畜舎の周辺や運動場の排水溝の点検・清掃により速やかな排水に努める。
- 2) 畜舎内の通風と換気に努め、敷料は早めに交換するなど畜舎内の乾燥に努める。
- 3) 畜舎、牧柵、防鳥ネット等の施設の保守管理により、野生動物侵入防止に努め、家畜伝染病の発生を予防する。

### 2 飼料作物（トウモロコシ・ソルガム）

- 1) ほ場内の排水に努め湿害を軽減したうえで、適期収穫を心掛ける。
- 2) トウモロコシでは、雨天が続く多湿になると、ごま葉枯病・根腐病などの病害や硝酸塩の蓄積

が多くなるので注意を要する。

- 3) ソルガムは、高水分では良質なサイレージの調製が難しいので、乳酸菌等の添加剤を利用する。
- 4) 硝酸塩の蓄積が懸念されるため、できる限り青刈り給与を避けてサイレージに調製するが、青刈り給与が必要な場合は、事前に検査機関で硝酸塩濃度の分析を行い、適正給与量を判断する。

## 2 飼料イネ

- 1) 中干しが不十分な場合は、根の活性を維持するために間断かん水を徹底する。
- 2) 飼料イネ専用種は、品種によりいもち病や縞葉枯病等に対する耐病性が異なるので、ほ場で発生を確認した場合は、県の防除指針等に記載されている農薬を選定し、特に使用時期には留意して防除する。
- 3) 飼料イネは、高水分では良質なサイレージの調製が難しいので、乳酸菌等の添加剤を利用する。